

平成30年4月2日
京都市立池田東小学校
校長 實居 繁治

平成30年度 学校教育方針

◆学校教育目標

「心豊かなに、自ら学び 自ら考える子」の育成

* 「心豊かな」子を育成するために

- (1) TPOを踏まえた言葉遣い、ルールやマナー等の理解や、実践につながる指導を行う。
- (2) 校内および教室美化の意識と清掃活動に取り組む姿勢の徹底を行う。
- (3) お互いの違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものは身に付ける「しなやかな道徳教育」の実践を推進する。
- (4) 個が生き、個が活かされる学級経営をめざす。(学級目標の具現化)
- (5) 読書活動の充実。(ex:読み聞かせ、全校一斉読書等、本に親しむ機会の充実)
心動く経験(「感動体験」の効用)
- (6) 生徒指導(認め合い、励まし合う集団づくり・心の通い合う生徒指導と問題行動への迅速対応・予測予防の取組)の充実。
- (7) 時刻や時間の大切さを意識し、見通しをもたせる。
- (8) 子どもを深く見つめ、良さを見つけ、励ます指導の継続。

* 「自ら学び自ら考える」子を育成するために

- (1) 一人一人の児童の実態をふまえた教材研究に基づく丁寧な学習指導を行う。
学習意欲を高める授業を通して、自ら学びに向かう姿勢を育む。
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざす。(反復学習、家庭学習などの工夫)
主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る。(意図的・計画的な毎日の家庭学習)
- (3) 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を図る。
- (4) 探究的な学習を充実させる「総合的な学習の時間」の単元展開。
- (5) 単元や題材のまとめの中で授業のデザインを意識し、習得した「見方・考え方」を働かせて、「深い学び」に向かう授業展開をする。
- (6) 本時の「めあて」「見通し」を確認し、協働的な「まとめ」と「振り返り」を行い、「わかる喜び」が実感できる授業を展開する。
- (7) 情報機器(PC・iPadなど)を効果的に活用する。
- (8) 「学習・情報センター」「読書センター」としての図書館機能の充実とその活用。
- (9) 自主的、自発的な児童会活動(教え導く指導と子どもに考えさせる指導)

◆期待する子ども像

『感動できる子』『感謝できる子』『時間を大切にできる子』『関係を大切にできる子』

・「感動」できる子 <心動く経験>

人は美しいものやすばらしいこと、素敵なことに接したとき、強く心を動かされる。この「感動」は、自立性・自主性を奮い立たせるきっかけとなり、新しい考え方や価値観獲得のきっかけとなり、人を大切に思う気持ちを目覚めさせる。子どもたちには、美しいものに出会い、美しい生き方に出会い、時間やおもいを共有しながら、たくさん心を動かす経験をしてほしい。

・「感謝」できる子 <伝える力>

人は自分一人では生きていけない。自分を取り巻くあらゆるものに支えられ生きている。そう考えると、「感謝の心」を感じられるようになってくる。この「感謝の心」を「ありがとう」という言葉や笑顔で、周囲の人々に伝えていくことができる子になってほしい。そのことが、周りの人々を、自分を、和ませ、幸せな気持ちにしてくれる。

・「時間」を大切にできる子 <規律の確立>

時間には長さがあり、限りがあるものである。この限りある時間を大切に使って、たくさん学び、経験し、楽しんでほしい。また、時間を大切にするということは、規律を守るという点からも大切であり、それは学習規律や生活の規律を守ることに繋がり、自らを律する力を育てることに繋がるものである。

・「関係」を大切にできる子 <人権・協働>

人は、人とのかかわりの中で生きている。その中で、周りの人々を思いやる想像力を身に付けてほしい。そのためには、自分を見つめるもう一人の自分を育て、自分は、今、何をするときかを考え、行動することを大切にしたい。あいさつがしっかりでき、人に優しい声かけをかけられる人であり続けてほしい。また、人に、おかしいことはおかしいと言える優しさも持ってほしい。また、人とのかかわりの中で、自己有用感を高めたい。

◆めざす子ども像 ~自ら学ぶ力・自ら律する力~

- ① 学習準備ができ、意欲的に考え方
- ② しっかり話を聴き、しっかり話せる子
- ③ 整理整頓ができ、自律的で健康的な生活がおくれる子
- ④ TPOに応じた挨拶や話し方ができる子
- ⑤ 困った時にどうすればよいかを考え、実践できる子
- ⑥ 生活面や学習面で、自らを振り返ることができる子
- ⑦ 粘り強く取り組み、よりよい自分を求めつづける子
- ⑧ 自己有用感を持ち、貢献できる子

*めざす子ども像にせまるために

- ・人の話をしっかり聴く態度を養う。
- ・望ましい基本的生活習慣（食生活・睡眠など）の指導
- ・時と場に応じた挨拶やきまりの順守。公共の精神に基づく態度を養う。
- ・具体的な目標の設定と、目標の達成度についての振り返りの充実
- ・集中して、粘り強く取り組む姿勢を養う。
- ・運動に親しみ体を鍛えていく習慣と姿勢を養う。（部活動・休み時間の遊びなど）
- ・子どもを深く見つめ、良さを見つけ、認め・励ます指導

◆めざす教職員像

～自覚と自信～

- 子どもの可能性を信じ、学び続ける教職員
- 相手の心に寄り添える教職員
- メリハリがあり、バランス感覚のある教職員
- 冷静かつ迅速に対応する教職員
- チームワークで子どもを見守り、育む教職員
- 「計画」「徹底した実行」「振り返り（評価）」「改善」のサイクル

◇学校を核とした開かれた学校づくり

- (1) 地域人材の育成と活用
- (2) 地域の人と関わる地域行事への積極的参加
- (3) 安心安全のまちづくり
- (4) 学校運営協議会の充実
- (5) 保・幼・小・中の連携

◇本年度の重点

- (1) 研究を核とした学校経営・学級経営
課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- (2) 積極的な生徒指導や総合育成支援教育
生徒指導委員会・ケース会議等の効果的活用
- (3) 組織力の活性化と有機的に結びつく組織の構築
主任の活用とチームとしての取組
- (4) 家庭学習の充実
家庭学習の在り方と積み重ね。自学自習の習慣化。（家庭学習のてびきの活用）

平成30年度 学校経営方針の骨子

本校の強みの一つとして、地域は学校の良き応援団であることが挙げられる。したがって、学校に寄せる期待も大きい。教職員一人一人が、こうした背景を理解した上で、前年度の取組の成果と課題を総括し、共通理解した上で、自らの姿勢や取組の再点検をすることが大切であると考える。学校教育目標をより具体化するために、「『心豊かに、自ら学び 自ら考える子』の育成」を学校教育目標とし、期待する子ども像を「感動できる子・感謝できる子・時間を大切にできる子・関係を大切にできる子」の4つにまとめ、さらに、めざす子ども像とめざす教職員像を設定した。

人権教育については、集団としての高まりと、その集団の中で個が大切にされ、一人一人の子どもが学習に向かうことができるための学級経営の構築と、「想像する力」を養うことを重点とする。この、「想像する力」とは、他人を思いやる「想像力」であり、今の自分を見つめるもう一人の自分がいなければならない。自分で見、考え、判断し、行動することを大切にしなければならない。また、自分や他者を大切にして、互いの関係をよりよいものに構築し、ともに高まり合うことをめざすために、道徳学習の充実を図り、共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかりと身に付けていく「しなやかさ」を培っていきたい。このことは、子どものみならず、教職員や保護者にとっても重要な視点である。そして、子どもたちに、様々な体験を通して学んだ知識や行動する力、他者を思いやる心を糧に、問題解決力を身に付けさせ、自律する力、自立する力を育みたい。

学力向上は学校に課せられた責務である。学力の定着は進路保障につながることを教職員で共通認識し、日々の授業改善を進めてきた。その結果、ジョイントプログラムやブレジョイントプログラム、研究会テスト等で数値では一定の改善は見られた。また、教職員の学力向上への意識も高まっているとどうれている。しかし、細かく見ていくと課題も少なくないのが現状であり、今年度は、カリキュラムマネジメントの視点から学校運営を意識した教育活動の展開、研究を核とした学校経営を重視し、さらなる高みをめざすとともに、児童の自主性を培うことを重点においていた取組を推進していきたい。